

X-point

サイボウズ ガルーン
連携サービス
導入・設定ガイド

2026/02/01 版



はじめに

◆本書の目的

本書は、X-point と「サイボウズ ガルーン (パッケージ版)」を連携させるための連携サービス導入手順を説明しています。本書をよくお読み頂いた上で設定作業を行ってください。

！注意事項

本書は「サイボウズ ガルーン」の最新バージョンに沿って作成されています。旧バージョンの設定を行う際は、特に断りがない限り本文中の記載を適宜置き換え、設定作業を行なって下さい。設定内容・方法が異なる箇所については、本文中に明記されております。

◆対象とする読者

本書は X-point サーバーの導入を行なう技術者を対象としています。技術者とは X-point の導入を提案する販売店もしくは SI 企業の技術者、X-point を利用する企業の情報管理者などを指します。

◆対応バージョン (2026/21/01 時点で利用可能な「サイボウズ ガルーン」)

X-point	認証形式	サイボウズ ガルーン
X-point v3.13	オープン統合認証 ver. 2	「X-point Ver3 系動作環境一覧」をご確認ください。 https://www.atled.jp/document/xpoint/version_xpcLOUDv3.html

！注意事項

- ※ 「cybozu.com」にて提供されているガルーンには対応しておりません。本オプションはオンプレミス版サイボウズ・ガルーン用です。
- ※ サイボウズ・ガルーンと X-point Cloud が利用するプロトコル (http 又は https) は揃えて使うようにしてください。
- ※ サードパーティーCookie が利用できない場合は本機能のポートレット表示を利用する事はできません。
- ※ 但し、Chrome/Edge/Firefox ブラウザで Storage Access API が利用できる場合、ブラウザ操作者がコンテンツ使用を許可する事で本機能のポートレットが利用可能になります。許可指定の要否はポートレットを利用する際に行われ、ユーザによる使用許可の設定が必要であると判断された場合にポートレット表示位置に確認画面が表示されます。表示が許可された場合は 30 日以内に再利用する限り継続してポートレットが表示されます。30 日以内の利用が無い場合は再度コンテンツ使用の許可を求める表示が行われます。
なお、ブラウザ側で許可を受け付けられない設定が行われている場合は変更できない事を示す表示が行われポートレット表示は行われません、ポートレット表示ができるように設定の変更を行ってください。

【設定項目】2025/10/06 時点

- Chrome . . . 設定>プライバシーとセキュリティ>サードパーティーCookie
- Edge . . . 設定>Cookie とサイトのアクセス許可>
保存された Cookie とデータ>Cookie とサイトのデータ管理と削除
- Firefox . . . 設定>プライバシーとセキュリティ>強化トラッキング防止機能

◆製品名について

本文中、「X-point サーバー」は「X-point」と表記しています。
また、各製品の名称は対応バージョンを省略してある箇所もありますのでご了承ください。

◆商標について

本書の一部、または全部を著作権所有者の許諾なしに、商用目的の為に複製、配布することはできません。
X-point、エクスポイントの名称およびロゴは株式会社エイトレッドの商標または登録商標です。
Microsoft、MS-DOS、Windows は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。Macintosh、MacOS は Apple Computer, Inc. の米国およびその他の国における登録商標です。Adobe、Acrobat、Adobe Acrobat は Adobe Systems, Inc. の商標または登録商標です。ORACLE、Java、JavaScript は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。サイボウズ、Cybozu はサイボウズ株式会社の登録商標です。

その他、記載された会社名およびロゴ、製品名などは該当する会社の商標または登録商標です。本書では、®、®、(TM) の表示を省略しています。ご了承ください。

◆製作著作

©2026 株式会社エイトレッド

目次／索引

第 1 章. X-point ガルーン連携の概要	4
1.1. どんな機能が実現できるの?	4
1.2. ガルーン連携時の仕様	5
1.3. X-point ポートレットについて	7
1.3.1. サードパーティーCookie が利用できない場合の動作	8
第 2 章. 導入編 (サイボウズ ガルーンの設定)	9
2.1. オープン統合認証を設定する	9
2.2. X-point ポートレットを追加する	11
2.3. X-point メニューを除去する	15
第 3 章. 導入編 (X-point の設定)	16
3.1. サイボウズ連携設定	16
第 4 章. ユーザ情報メンテナンス編	18
4.1. ガルーンからユーザ CSV 書き出しを行う	18
4.2. X-point へユーザ CSV をインポートする	19
4.3. インポート時の注意事項	21
4.4. CSV ファイル仕様①	22
4.5. CSV ファイル仕様②	23
4.6. ガルーンと X-point のユーザ情報マッピング①	24
4.7. ガルーンと X-point のユーザ情報マッピング②	25
第 5 章. 動作確認編	26
5.1. 動作確認チェックリスト	26
第 6 章. ガルーン・アップデート時の注意	26

第1章. X-point ガルーン連携の概要

1.1. どんな機能が実現できるの？

「サイボウズ ガルーン連携サービス」でどのような機能が実現できるか説明します。

ガルーン

X-point

ガルーンのポータル画面に X-point ポートレットを表示

X-point の「承認状況」を表示

フォーム

X-point の「フォーム一覧」を表示、クリックしてフォームを表示

シングルサインオン(SSO)

ガルーンと X-point とでシングルサインオン(SSO)が可能となります。ガルーンにログインすると X-point はログインなしに入る事ができ、X-point ログイン時の 2 重入力が不要となります。

ガルーン ポータルへの X-point ポートレット表示

X-point の標準機能である「提出」、「検索」、「承認」、「ブックマーク」、「グラフ」をガルーンのポータルページに組み込むことが出来ます。

！注意事項

X-point ポートレットは、ドメイン設定のユーザサイトメニュー利用制限の対象外となります。特定のガジェットを非表示にしたい場合は、グループウェア等で個別に制御してください。

ユーザ情報の同期

ガルーンから書き出した「グループ」「ユーザ」「ロール」の CSV ファイルを X-point へインポートできます。

▼ガルーン「ユーザ書き出し」画面

▼X-point「ユーザインポート」画面

1.2. ガルーン連携時の仕様

「サイボウズ ガルーン連携サービス」の仕様について説明します。

PHP ポートレットによる連携

ガルーンの PHP ポートレットを利用して X-point と連携を行います。

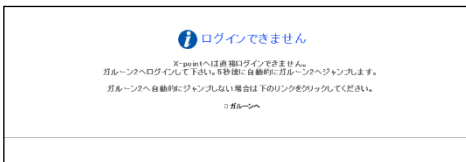
X-point 側複数ドメインとの連携はできません

ガルーンと連携できるのは、X-point サーバー内の 1 ドメインのみとなります。2 つ以上のドメインとは連携できませんので、連携設定時にガルーンと連携するドメインを決定しておく必要があります。

X-point 単独でのログインはできません

ガルーンと連携しているドメインでは、X-point フロントサイトからのログインはできません。必ずガルーンにログインした後 X-point を利用する必要があります。

▼X-point フロントサイトに直接ログインした場合



ユーザ情報を必ず同期させる

ガルーンの「ログイン名」と X-point の「ログイン ID」が同じであるユーザは、ガルーンからのシングルサインオンが可能です。

パスワードはガルーンと X-point との間で同期する必要はありません。

ガルーンへのアクセス URL

X-point と連携する場合、利用者がアクセスするガルーンの URL は、完全修飾ドメイン名（推奨）か IP アドレスのいずれか一方に決定する必要があります。

以下の xxx.xxx.xxx.xxx 部分を IP アドレスか完全修飾ドメイン名(FQDN)とする。

http://xxx.xxx.xxx.xxx/cgi-bin/cbgrn/grn.cgi/index?

※ 決定した URL 以外からガルーンにアクセスすると X-point へのシングルサインオンができません。

ユーザ情報の同期について

ガルーンから書き出した CSV ファイルを X-point へインポートすることでシングルサインオンに必要な情報を X-point 側へ用意します。

【X-point へのインポートで同期できるデータ】

- ・ グループ
- ・ ユーザのグループへの所属
- ・ ユーザ
- ・ ロール
- ・ ユーザのロールへの所属

【X-point へのインポートで同期できないデータ】

以下のデータはインポートでは同期できません。X-point 管理者サイトから手動でメンテナンスする必要があります。

- ・ 役職
- ・ ユーザの役職

X-point 側にパスワードは不要です

ガルーンからの CSV 書き出し時にパスワードは“*”で出力される為、X-point へインポートすると X-point 側ユーザのパスワードは“*”になります。

ガルーンとシングルサインオンする為には、ガルーンの「ログイン名」と X-point の「ログイン ID」が同じである必要がありますが、パスワードについては同期する必要はありません。

eFormMaker に接続するユーザのパスワードは個人設定から変更

ガルーンからシングルサインオンする際は、パスワードによる認証は行いませんが、フォーム管理者が eFormMaker の【動作環境設定】から接続する際はパスワード“*”では接続できません。eFormMaker に接続するユーザのパスワードは、X-point 管理者サイトのユーザ設定や、フロントサイトの【個人設定】から“*”以外のパスワードに変更しておく必要があります。

通知メールからの書類表示

X-point にログイン中のユーザに限り、通知メールから書類を表示することができます。

(X-point ポートレットの表示や、X-point にシングルサインオンすると X-point にログインした状態になります。)

管理者サイトのログインについて

ガルーン連携を行っている場合、管理者ユーザは X-point 管理者サイトログイン画面から、管理者サイトへログインすることはできません。X-point フロント画面のメニュー上部の「管理者メニューへ」リンクより管理者サイトへ移動してください。

システム日付を同期させる

X-point サーバーとガルーンサーバーでシステム日付が異なると、連携に失敗する場合があります。そのため、ガルーンサーバーの時間を X-point サーバーに同期させる必要があります。

1.3. X-point ポートレットについて

ガルーンのポータルに追加できる X-point ポートレットは以下の 5 種類です。

X-point ポートレットは、ガルーンの「システム管理」画面からポータルに組み込むことができます。

▼「提出」ポートレット



書類新規作成用ポートレットです。

ここからフォームを選択して X-point のフォームを開き、書類作成を行います。

▼「承認」ポートレット



ワークフローの状況別件数を確認するポートレットです。

承認待ち件数等が確認できます。

件数のリンクをクリックすると X-point の【承認画面】へ遷移します。

※ ポートレット表示直後のワークフロー件数は全て 0 件で表示されます。表示後、暫くすると件数が表示されます。

※ 「更新」ボタンを押すことで、直ちに件数を更新することができますが、10 秒以内に件数が更新されている場合は再取得されず件数の表示は変化しません。

▼「検索」ポートレット



書類を検索する為のポートレットです。

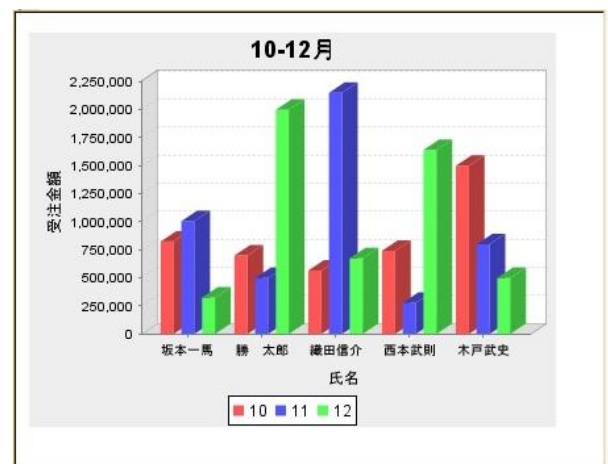
検索条件を入れて【検索する】ボタンをクリックすると X-point の【検索画面】検索結果画面へ遷移します。

▼「ブックマーク」ポートレット



X-point で登録したブックマークの一覧が表示されるポートレットです。

▼「グラフ」ポートレット



X-point で作成したクエリの集計結果をグラフ表示できるポートレットです。

1.3.1. サードパーティーCookie が利用できない場合の動作

サードパーティーCookie が利用できない設定であるブラウザではポートを表示する事ができません。

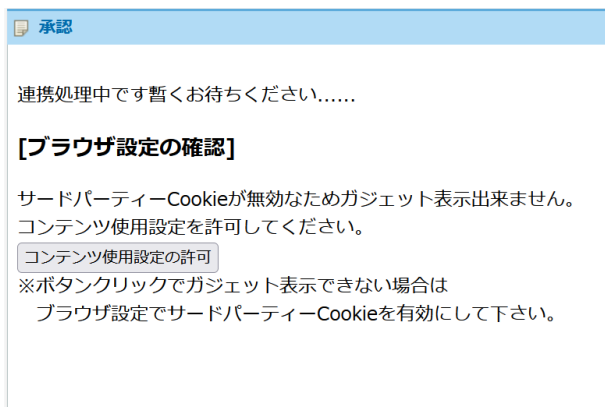
但し、Chrome/Edge/Firefox ブラウザで Storage Access API が利用できる場合は、ブラウザ操作者がコンテンツ使用を許可する事で本機能のポートレットを利用する事が可能になります。

コンテンツ使用の許可はポートを表示する一連の動作に組み込まれています。

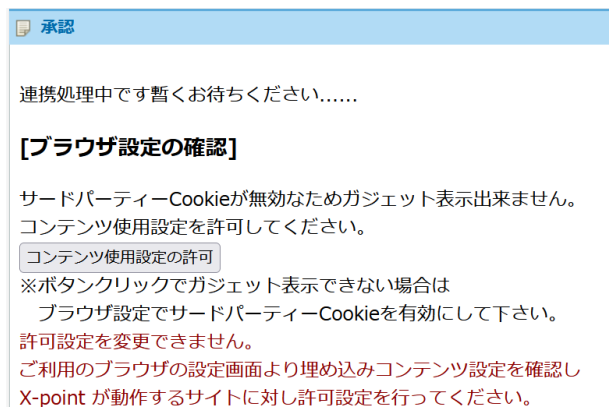
【許可動作の流れ】

1. Office・ガルーンから X-point のポートレット表示機能呼び出す
2. サードパーティーCookie の利用が許可されている ⇒ ポートレットを表示して終了
3. Storage Access API の利用が許可されている ⇒ ポートレットを表示して終了
4. ポートレット位置に「コンテンツ使用設定の許可」ダイアログが表示される
5. ユーザが「コンテンツ使用設定の許可」をクリックする（必ず“人”が操作します）
6. ブラウザ設定で Storage Access API の許可操作が許されている ⇒ ポートレットを表示して終了
7. ブラウザ設定が Storage Access API の許可操作を許していない ⇒ ポートレットの表示は出来ません

【「コンテンツ使用設定の許可」ダイアログ】



【Storage Access API の許可操作が許可されていない】



Storage Access API の利用が許可されるとポートレットが表示されるようになります。

複数のポートレットを表示する画面の場合は、一つのポートレットで許可を行うと他のポートレットも自動的に許可されます。

※ 自動で許可されない場合は、画面全体を再表示してください。

表示が許可された場合は 30 日以内に再利用する限り継続してポートレットが表示され表示の度に延長されます。30 日以内の利用が無い場合は再度コンテンツ使用の許可を求める表示が行われます。

第2章. 導入編 (サイボウズ ガルーンの設定)

ガルーン側の連携設定の手順を説明します。

なお、ガルーン 3.5、及びそれ以前のバージョンよりアップグレードを行ったガルーンの場合は、「X-point メニューを削除する」の作業を必ず実施して下さい。

2.1. オープン統合認証を設定する

ガルーン側 Web サーバーの設定が完了したら、続けてガルーン「システム管理」画面からオープン統合認証の設定を行います。この設定を行うには、ガルーンのシステム管理権限を持っている必要があります。

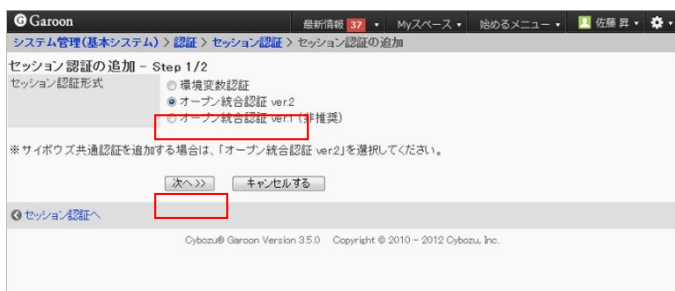
■オープン統合認証の追加

画面右上の「システム設定」から「システム管理」画面へ入ります。

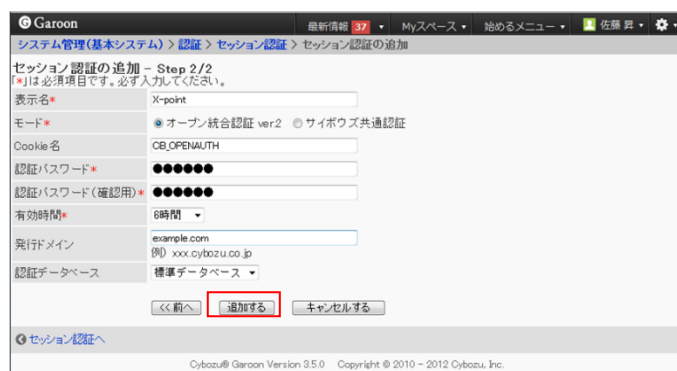
【基本システムの管理】タブ→【認証】→【セッション認証】→【セッション認証を追加する】画面へ遷移し、セッション認証形式の「オープン統合認証 ver.2」にチェックし、【次へ>>】ボタンをクリックします。

※ サンプルデータを導入している場合「オープン統合認証 Ver.2」を使ったデータが登録されている場合があります、登録されている場合は削除してください。

▼STEP1/2



▼STEP2/2



Step2 では以下の内容を入力します。

項目名	設定値
表示名	X-point
モード	「オープン統合認証 ver.2」を指定
Cookie 名	CB_OPENAUTH
統合認証パスワード	xpoint ※X-point 側の連携設定も同じパスワードを指定します。
統合認証パスワード (確認用)	xpoint
有効期間	1 時間 ※認証情報の有効期間を指定します。Cookie の保持期間ではありません。
発行ドメイン	ガルーン サーバーの FQDN 名 ※空欄でも動作可能 (例) grn2.atled.jp
認証データベース	標準データベース ※LDAP など別の認証データベースを使用している場合は変更する

セッション認証の入力が完了したら、【追加する】ボタンをクリックし、セッション認証画面にもどります

▼【基本システムの管理】タブ→【認証】→【セッション認証】



登録したセッション認証「X-point」右側のボタンが【使用する】になっている状態では認証設定が有効になっていません。ボタンをクリックして有効にします。ボタンの表示が【使用しない】になっている状態であれば、既に有効になっています。

！ 注意事項

認証設定が有効になっていない場合、X-point サーバーにユーザ情報が伝わらないため、ポートレット等が正しく表示されません。

なお、統合認証に関する情報はブラウザの Cookie に保存されています。その為、設定変更後にクライアント側で保存されている Cookie 情報を削除する必要がある場合があります。ログイン動作が上手く処理されない場合は、Cookie 情報の削除を試してください。

2.2. X-point ポートレットを追加する

ガルーンに X-point のポートレットを追加する設定方法について説明します。

ポートレットグループ追加

【各アプリケーションの管理】タブ→【ポータル】→【ポートレットグループ】→【ポートレットグループを追加する】画面へ遷移し、以下の情報を入力して X-point ポートレットグループを追加します。

▼ポートレットグループ追加画面



「グループ」に”X-point”と入力して【追加する】をクリックします。

PHP ポートレットの追加（基本 4 種+グラフ）

【各アプリケーションの管理】タブ→【ポータル】→【ファイルからの読み込み】→【PHP ポートレットの読み込み】画面へ遷移し、php_portlet.xml を【読み込む】ボタンよりアップロードし、ポートレットの一括定義を行います。

▼PHP ポートレットの読み込み画面

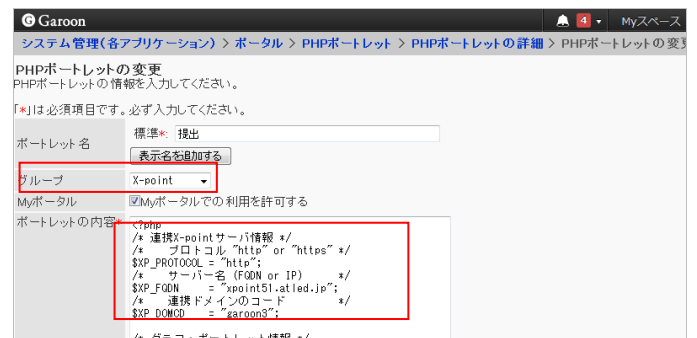


読み込みが完了すると「提出」、「検索」、「承認」、「ブックマーク」、「グラフ」ポートレットが追加されます。

PHP ポートレットのグループ設定

【各アプリケーションの管理】→【ポータル】→【PHP ポートレット】→【提出】→【変更する】画面へ遷移し、以下の情報を入力して X-point ポートレットグループに所属するよう設定します。同様の手順で「検索」、「承認」、「ブックマーク」、「グラフ」についても設定を行って下さい。

▼ポートレットグループ追加/ポートレット内容修正画面



「グループ」から”X-point”を選択します。

引き続き、ポートレットの内容に連携する X-point の情報を設定します。

```
/* 連携 X-point サーバ情報 */
/* プロトコル "http" or "https" */
$XP_PROTOCOL = "http";
/* サーバー名 (FQDN or IP) */
$XP_FQDN = "xpoint.atled.jp";
/* 連携ドメインのコード */
$XP_DOMCD = "garoon3";
```

※赤字の部分で連携環境にあわせ修正します。

- \$XP_PROTOCOL … 接続プロトコルを指定します
- \$XP_FQDN … 接続 X-point の FQDN/IP を指定します
- \$XP_DOMCD … 連携ドメインのコードを指定します

「My ポータルでの利用を許可する」設定は必要に応じてチェックして下さい。修正が完了したら【変更する】をクリックします。

修正はポートレット 5 種類（提出、承認、検索、ブックマーク、グラフ） 其々について行います。

（ポートレットを利用しない場合も修正してください。）

グラフポートレットの設定方法について

！注意事項

PHP ポートレットを読み込んだ直後の状態ではグラフポートレットにグラフを表示させることはできません。
以下の手順で、グラフポートレットを設定して下さい。

1) X-point のクエリ管理で、グラフ表示させたいクエリの「クエリコード」を確認する。

【クエリ管理/クエリプロパティ画面】

※グラフ表示を「しない」設定になっている場合、ガルーンのポートレットにグラフを表示することはできません。

※対象となるクエリの実行権限があるユーザにのみグラフが表示されます。

⇒クエリ・グラフ設定の修正については、X-point 管理者機能マニュアル「グラフの設定」の章をご参照ください。

2) ポートレットの内容を編集する。

【各アプリケーションの管理】 → 【ポータル】 → 【PHP ポートレット】を開き、初期登録されている「グラフポートレット サンプル」をクリックし【変更する】を実行します。

▼基本項目の指定

項目名	設定値
ポートレット名	任意の名称を入力して下さい。(例：グラフ_下半期受注実績など)
グループ	X-point
My ポータル	用途に合わせてチェックして下さい。

ポートレット名を好みの名称に変更した後、ポートレットの内容を修正します。

▼連携先の指定（項目：ポートレットの内容）

```
/* 連携 X-point サーバ情報 */  
/* プロトコル "http" or "https" */  
$XP_PROTOCOL = "http";  
/* サーバ名 (FQDN or IP) */  
$XP_FQDN = "xpoint.atled.jp";  
/* 連携ドメインのコード */  
$XP_DOMCD = "garoon3";
```

※赤字の部分連携環境にあわせ修正します。

- \$XP_PROTOCOL … 接続プロトコルを指定します（“http” もしくは “https” のどちらか）
- \$XP_FQDN … 接続 X-point の FQDN、もしくは IP アドレスを指定します
- \$XP_DOMCD … 連携ドメインのコードを指定します

※ 指定する文字列（赤字部分）は必ず “” で囲ってください。

忘れるとポートレットが表示されない場合や意味不明な表示になる場合があります。

▼グラフ専用項目を指定（項目：ポートレットの内容）

```
/* グラフ・ポートレット情報 */  
/* 表示クエリのコード */  
$XP_GRAPH_CD = "querycd";  
/* タイトル名 */  
$XP_GRAPH_NAME = "グラフ";  
/* ポートレット幅 (px) */  
$XP_GRAPH_W = "100%";  
/* ポートレット高さ (px) */  
$XP_GRAPH_H = "350px";
```

※赤字の部分連携環境にあわせ修正します。

- \$XP_GRAPH_CD … グラフ表示に利用するクエリのコード名を指定します。
- \$XP_GRAPH_NAME … ポータル上に表示される、ポートレットの見出し名を指定します。
- \$XP_GRAPH_W … グラフポートレットの幅をピクセル値で指定します。最後に必ず “px” を付けます。
初期値 “100%” が指定されています。“100%” が指定されている状態ではブラウザ表示の状態に従い、ガルーンが自動的に決定します。
幅を固定で表す場合は、X-point のグラフ設定の横サイズ + 50 を目安に設定し、最後に “px” を付けます。
- \$XP_GRAPH_H … グラフポートレットの高さをピクセル値で指定します。最後に必ず “px” を付けます。
初期値は “350px” が指定されています。グラフがポートレットに表示する際に隠れてしまうような場合は、X-point のグラフ設定の縦サイズ + 50 を目安に値を修正します。

※ 指定する文字列（赤字部分）は必ず “” で囲ってください。

忘れるとポートレットが表示されない場合や意味不明な表示になる場合があります。

※ 幅、高さは数値の後に必ず “px” の2文字を付けて下さい。

3) 「変更する」をクリックして変更を反映させる。

複数のグラフポートレットを追加する場合

【各アプリケーションの管理】 → 【ポータル】 → 【PHP ポートレット】 で PHP ポートレットの追加を行います。

追加するポートレットには PHP ポートレットの変更にて、初期登録されたグラフのポートレットの内容をコピーした物を貼り付けます。貼り付けを行った後は、グラフポートレット表示に必要な各種の情報を設定します。

▼ポートレットグループ追加画面

「*」は必須項目です。必ず入力してください。

ポートレット名	標準*: グラフ <input type="button" value="表示名を追加する"/>	基本項目
グループ	X-point	
Myポータル	<input checked="" type="checkbox"/> Myポータルでの利用を許可する	連携先の指定
ポートレットの内容*	<pre><?php /* 連携X-pointサーバ情報 */ /* プロトコル "http" or "https" */ \$XP_PROTOCOL = "http"; /* サーバ名 (FQDN or IP) */ \$XP_FQDN = "xpoint.atled.jp"; /* 連携ドメインのコード */ \$XP_DOMCD = "garoon3"; /* グラフ・ポートレット情報 */ /* 表示クエリのコード */ \$XP_GRAPH_CD = "checkout"; /* タイトル名 */ \$XP_GRAPH_NAME = "グラフ"; /* ポートレット幅 (px) */ \$XP_GRAPH_W = "100%"; /* ポートレット高さ (px) */ \$XP_GRAPH_H = "350px"; /* オープン統合認証 Ver.2 (Cookie名) */ \$OP_COOKIE = "OP_DEFAULT";</pre>	

項目名	設定値
ポートレット名	任意の名称を入力して下さい。(例: グラフ_下半期受注実績など)
グループ	X-point
Myポータル	用途に合わせてチェックして下さい。
ポートレットの内容	既存のグラフポートレットの内容をコピー&ペーストして 上記手順2で示した赤字箇所を修正して下さい。

！注意事項

大量の書類に対して検索するような処理の重いクエリのグラフポートレットを複数登録した場合、X-point の処理の実行に必要なメモリ量が増加し、パフォーマンスの低下を招く可能性があります。

2.3. X-point メニューを除去する

ガルーン 3.6 以前のガルーンと連携設定を利用したことがある場合、ガルーンの“アプリケーション・メニュー”に X-point の遷移する項目が指定されている場合があります。PHP ポートレット連携を利用する場合は“アプリケーション・メニュー”からの連携を利用できないため登録を削除します。

！注意事項

- ・ ガルーン 3.7 にて連携情報に関する仕様変更が行われた事により“アプリケーション・メニュー”、“アプリ一覧”の利用ができなくなりました。

■アプリケーションメニュー一覧からの除去

【基本システムの管理】タブ→【画面】→【アプリケーションメニュー一覧】画面へ遷移し、X-point メニュー横のチェックボックスを選択し【削除する】を実行します。

▼アプリケーションメニュー一覧で削除

<input type="checkbox"/>	お気に入り (お気に入り)
<input type="checkbox"/>	通知一覧 (通知一覧)
<input type="checkbox"/>	ポータル (ポータル)
<input checked="" type="checkbox"/>	X-point (http://xpoint.ated.jp/xpoint/loginSSOPort.do)

チェックした項目を

■アプリ一覧からの除去

【基本システムの管理】タブ→【画面】→【アプリ一覧】→【メニューを追加する】画面へ遷移し、X-point メニュー横のチェックボックスを選択し【削除する】を実行します。

▼アプリ一覧で削除

<input type="checkbox"/>	お気に入り (お気に入り)
<input type="checkbox"/>	通知一覧 (通知一覧)
<input checked="" type="checkbox"/>	X-point (http://xpoint.ated.jp/xpoint/loginSSOPort.do)

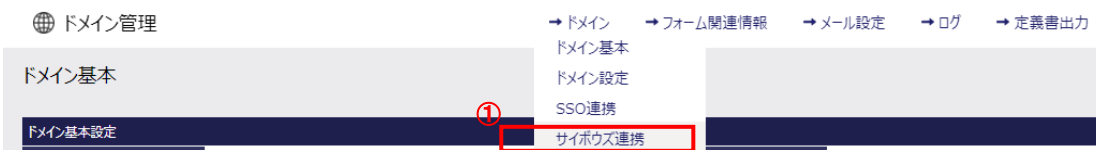
チェックした項目を

第3章. 導入編 (X-pointの設定)

3.1. サイボウズ連携設定

「サイボウズ ガルーン連携サービス」オプション付きのライセンスが適用されていると、ドメイン管理画面のメニューに「サイボウズ連携設定」メニューが表示されます。X-point 側の設定はこの画面から行います。

X-point 側での連携設定は「ドメイン管理」メニューより「サイボウズ連携」を選び画面を表示します。



設定画面で【設定変更】をクリックします。



※ ライセンスの状態により表示される画面の構成が異なります。「+X サイボウズ ガルーン連携」を操作します。

サイボウズ連携設定
サイボウズ ガルーン連携

項目	設定値	備考	
プロトコル	https	ガルーンのURLスキーム	
ホストアドレス	garoon.example.com	ガルーンのIPまたはホスト名	
ポート番号		ガルーンのポート番号 ※省略時は80番ポート	
ログインURL	/cgi-bin/cbgrn/grn.exe/index?	ガルーンログイン画面のURL	
統合認証	認証Version	<input type="radio"/> Ver.1 <input checked="" type="radio"/> Ver.2	
	パスワード ※省略時はxpoint	
	Cookie名	CB_OPENAUTH	
	発行ドメイン名(FQDN)	example.com	※日本語URLは登録できません
	発行パス	/	
	有効時間(秒)	21600	

※ 統合認証の設定内容は、ガルーンのオープン統合認証の設定で指定した内容を指定します。
※「Cookie名」は変更しないでください。連携先の設定内容に関係なく固定です。

削除

デフォルト値設定

保存

画面の説明に従い連携に必要なパラメータを設定します。

！ 注意事項

※ 「ホストアドレス」の指定に基づき、X-point 上に表示されるガルーンへのリンク URL が生成されます。ガルーンへのアクセス URL に使用する完全修飾ドメイン名(FQDN)、または IP アドレスを指定して下さい。

ガルーン連携用ライセンス(サイボウズ ガルーン連携サービス)の適用

既に稼働している X-point に対して連携設定を行う場合は、新たにガルーン連携用ライセンスを適用する必要があります。ライセンスの発行については各代理店等にお問い合わせ下さい。

第4章. ユーザ情報メンテナンス編

4.1. ガルーンからユーザ CSV 書き出しを行う

この章では X-point へインポートする為のユーザ CSV ファイルをガルーンから書き出す方法について説明します。

ガルーンの「システム管理」画面へログインし、【基本システムの管理】タブ→【ユーザー】→【CSV ファイルへの書き出し画面】より以下の CSV ファイルをエクスポートします。書き出す際の文字コードは「シフト JIS」または「UTF-8」を選択してください。

【ガルーンで実行する項目】

- ・ 組織情報（インポート時必須）
- ・ ユーザー情報（インポート時必須）
- ・ ユーザーの所属組織（インポート時必須）
- ・ ユーザーの所持ロール
- ・ ロール情報

▼ 【CSV ファイルへの書き出し】画面

▼ 【CSV ファイルへの書き出し】画面

Garoon 最新情報 37

システム管理(基本システム) > ユーザー > CSVファイルへの書き出し

ユーザーの書き出し

文字コード

先頭行に項目名を書き出す はい いいえ

CSVファイルのフォーマット バージョン3.0以前のフォーマットを使用する。
 バージョン3.0以前のフォーマットを使用しない。

書き出す際の注意事項

項目は以下の順で書き出します。

1. 現ログイン名	2. 名前	3. 新ログイン名	4. パスワード
5. 表示優先度	6. 使用/停止	7. 削除フラグ	8. よみ
9. E-mail	10. メモ	11. 役職	12. 連絡先
13. URL	14. 社員番号		

ユーザー情報の項目の変更に伴い書き込む項目が増減します。

[CSVファイルへの書き出しへ](#)

■ 文字コード
“シフト JIS”または“UTF-8”を指定します。

■ 先頭行に項目名を書き出す
“はい”を指定します。

“ユーザー情報”の書き出しの際、バージョン 3.0 以前のフォーマットを使用するにチェックしてください。

★ 注意事項

- ・ サイボウズ ガルーン 3.2 以降では出力されるユーザ情報の CSV 形式が異なります。必ず上記の手順にてエクスポートして下さい。
- ・ ユーザ情報の項目を初期状態から変更されている場合は、そのままの CSV ファイルでは X-point へインポート出来ません。後章で説明する「CSV ファイル仕様」に合わせて修正を行う必要があります。
- ・ ログイン名、ロール名等は半角英数字である必要があります。詳しくは 4.4.CSV ファイル仕様①を参照ください。

4.2. X-point へユーザ CSV をインポートする

この章では前ページで書き出したガルーンユーザ CSV ファイルを、X-point へインポートする方法について説明します。

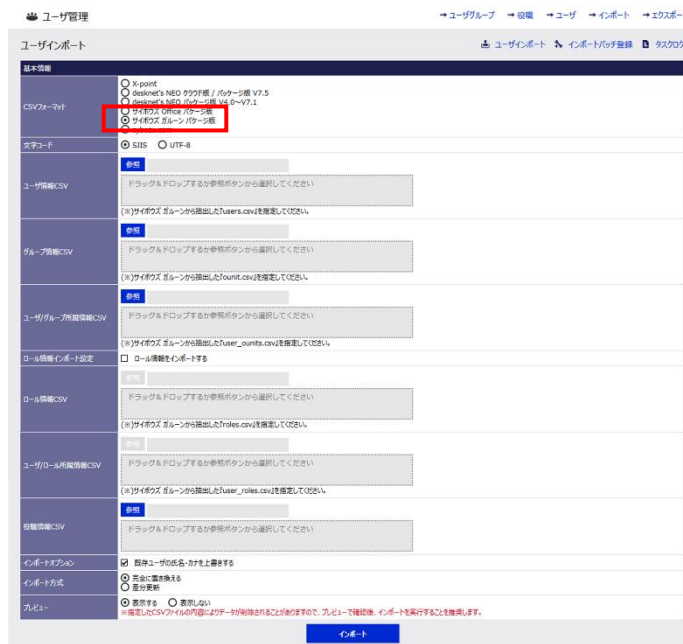
X-point 管理者画面へログインする

ガルーン連携を行っている場合、管理者ユーザは X-point 管理者サイトログイン画面から、管理者サイトへログインすることはできません。X-point フロント画面のメニュー上部の「管理者メニューへ」リンクより管理者サイトへ移動してください。

ガルーンのユーザ CSV ファイルをインポートする

管理者サイトの【ユーザ管理】から【インポート】画面へ遷移します。CSV フォーマットの「サイボウズ ガルーン」を選択すると、ガルーン用インポート画面に遷移します。

▼【ユーザ管理】→【インポート】



【参照...】ボタンをクリックして、ガルーンで書き出した CSV ファイルを指定します。

▼画面内の設定内容

項目名	設定値
CSV フォーマット	サイボウズ ガルーン パッケージ版
文字コード	CSV ファイルの文字コード
ユーザ情報 CSV	ユーザ情報を格納した CSV (users.csv)
グループ情報 CSV	グループ情報を格納した CSV (ounit.csv)
ユーザ/グループ所属情報 CSV	ユーザ/グループ所属情報を格納した CSV (user_ounits.csv)
ロール情報インポート設定	ロール情報をインポートする場合はチェックを付ける ※ロールは、X-point 側ではユーザーグループとして取り扱われます
ロール情報 CSV	ロール情報を格納した CSV (roles.csv)
ユーザ/ロール所属情報 CSV	ユーザ/ロール所属情報を格納した CSV (user_roles.csv)
役職情報 CSV	X-point 役職情報を格納した CSV
インポートオプション	ユーザ情報更新時に氏名、カナを上書きする場合はチェックを付ける
インポート方式	CSV のデータでユーザやグループ等の情報を置き換える場合は「完全に置き換える」を選択する CSV のデータに該当するユーザやグループ等のみ追加・更新したい場合は「差分更新」を選択する
プレビュー	「表示する」を選択する

インポートエラーの場合

インポート処理が実行される前に、データのエラーチェック処理が行なわれます。指定した CSV ファイルの全データに 1 件でもエラーチェックに該当するデータが存在した場合、データの登録は行なわれずに元のインポート画面に戻ります。エラーメッセージが表示された場合、CSV ファイルの確認と修正を行なった上で再度インポートを行ってください。

▼インポートエラーが発生した場合



インポート成功の場合

インポートが成功するとインポート結果画面が表示されます。
インポートログの出力設定を有効にしていると、インポートが完了したときにログファイルが作成され、インポート完了画面からログのダウンロードが可能です。

▼インポート結果画面

ユーザ管理 > ユーザグループ > 検索 > ユーザ > インポート > エクスポート

ユーザインポート

ユーザインポートが完了しました。以下、心ボート処理結果の一覧がご覧いただけます。

所要時間: 0.1769秒

ユーザ詳細	
合計数	23件
新規登録件数	23件
更新件数	0件

グループ詳細	
合計数	15件
新規登録件数	15件
更新件数	0件

ユーザグループ詳細	
合計数	23件
新規登録件数	23件
更新件数	0件

処理結果	
合計数	0件
新規登録件数	0件
更新件数	0件

心ボートログ

ログ出力設定: ON

4.3. インポート時の注意事項

ここではインポート時の注意事項について説明します。

1) X-point 管理画面から直接追加・更新したユーザ情報について

ガルーン連携の場合、ユーザの基本情報は全てガルーン側で管理されるものとします。

そのため、X-point 管理画面から直接追加または更新したユーザ情報についてはインポート後にデータが変更される可能性があります。ガルーン側には存在しない、X-point 管理画面から直接追加された X-point 側にのみ存在するユーザがいる場合、インポート後それらのユーザは使用不能となります。これはライセンスの関係からガルーン側に存在しているユーザのみが X-point 側でも有効となるためです。また、ガルーン側と X-point 側で登録されている内容（名前やメールアドレスなど）が異なっているユーザがいる場合、インポート後には全てガルーン側の情報によって上書きされます。

X-point 側にのみ存在するユーザを使用不能にたくない場合は、インポート方式「差分更新」でインポートすることで X-point 側にのみ存在するユーザに影響することなくガルーン側のユーザ情報のみ更新できます。

2) X-point の役職について

ガルーンには存在せず、X-point にのみ存在するデータとして役職マスタ情報があります。

この役職マスタ情報はインポートによって書き換えられる事はありませんが、X-point 側でユーザに対して役職所属情報を設定していた場合に、既に設定されている役職所属情報を維持するために特別な処理が行われます。この際に、役職マスタに登録されている役職の中で「役職コード」が空欄となっている役職については正しく役職所属情報が反映されません。インポートを実行する前に X-point の役職マスタに「役職コード」が空欄となっている役職が無いか確認してください。

3) X-point のメール通知設定について

メール通知設定については、ガルーンからインポートされた際に「通知メールを標準で送信する」に設定されます。

メールを送信させたくない場合や、前もってユーザによって設定値を変更したい場合は、ガルーンからのインポート後、以下の方法で設定してください。

1. ユーザ管理画面にて、ユーザ情報をエクスポートする
2. Excel 等を使用して CSV ファイルのメール通知設定列の値を変更する（該当者のメール通知フラグを 0 にします）
3. 修正した CSV ファイルを X-point 形式でインポートする

4) ガルーンのログイン名の変更について

ガルーン側でログイン名を変更した場合、そのまま該当のデータをインポートしようとする、既存のユーザが削除され、新規のユーザとして登録されてしまい、過去に提出された書類を閲覧できなくなります。ログイン名を変更する場合は、X-point へインポートする前に CSV ファイルをエディタ等で編集する必要があります。その際、「現ログイン名」の項目に X-point に登録されているログイン ID を指定してください。そうすることで既存ユーザのログイン ID が更新されます。

4.4. CSV ファイル仕様①

ユーザ情報 CSV レイアウト (users.csv)				
項目名	型	必須	桁	特記事項
現ログイン名	文字	●	200	*1, *2
名前	文字	●	60	「氏名、カナをインポートする」にチェックを付けている場合のみ必須
新ログイン名	文字	●	200	*1
パスワード	文字		-	(インポートには使用しない)
表示優先度	文字		-	(インポートには使用しない)
使用/停止	数値		1	値が空白または数値でない場合は0として扱う
削除フラグ	数値		1	値が空白または数値でない場合は0として扱う
よみ	文字		60	「氏名、カナをインポートする」にチェックを付けている場合のみ必須
E-mail	文字		120	
メモ	文字		1024	
役職	文字		-	(インポートには使用しない)
連絡先	文字		-	(インポートには使用しない)
URL	文字		-	(インポートには使用しない)

グループ情報 CSV レイアウト (ouunit.csv)				
項目名	型	必須	桁	特記事項
現組織コード	文字	●	40	*1
組織名	文字	●	120	
新組織コード	文字	●	40	*1
親組織コード	文字		40	*1
メモ	文字		1024	

ユーザ/グループ情報 CSV レイアウト (user_ouunit.csv)				
項目名	型	必須	桁	特記事項
ログイン名	文字	●	200	*1
組織コード	文字	●	40	*1

*1 半角英数字である必要があります。

*2 「4.3. インポート時の注意事項 4) ガルーンのログイン名の変更について」参照

4.5. CSV ファイル仕様②

(※) 以下、ロール情報、ユーザ／ロール情報 CSV は、ガルーンのロール情報を X-point へ取り込みたい時のみ利用します。ガルーンのロールは、X-point 側では 1 つのユーザグループとして取り扱われます。

ロール情報 CSV レイアウト (roles.csv)				
項目名	型	必須	桁	特記事項
ロール名	文字	●	40	*1
メモ	文字		1024	

ユーザ／ロール情報 CSV レイアウト (user_roles.csv)				
項目名	型	必須	桁	特記事項
ログイン名	文字	●	200	*1
ロール名	文字	●	40	*1

(※) 以下、役職情報 CSV はガルーンから書き出す CSV ファイルには含まれておりません。

役職情報 CSV レイアウト				
項目名	型	必須	桁	特記事項
役職コード	文字	●	40	*1
役職名	文字	●	120	
カナ	文字		120	
備考	文字		1024	

*1 半角英数字である必要があります。

4.6. ガルーンと X-point のユーザ情報マッピング①

組織情報	
ガルーン項目	X-point 項目
組織コード	ユーザグループコード
組織名	ユーザグループ名称
親組織コード	親ユーザグループ
メモ	備考

ロール情報	
ガルーン項目	X-point 項目
ロール名	ユーザグループコード
ロール名	ユーザグループ名
(対応項目無し)	親ユーザグループ
メモ	備考

ユーザ情報	
ガルーン項目	X-point 項目
ログイン名	ユーザコード
ログイン名	ログイン ID
名前	氏名
(対応項目無し)	印影上の表示名
よみ	カナ
E-mail	メールアドレス
メモ	備考
パスワード(*)	(対応項目無し) (*) ガルーンの製品仕様により CSV にはガルーンで登録されているパスワード情報が出力されません。 そのため、X-point ではパスワード情報を自動的に「*」と設定してシングルサインオンを実現しています。
表示優先度	(対応項目無し)
使用の停止	ログイン拒否
役職	(対応項目無し)
連絡先	(対応項目無し)
URL	(対応項目無し)
画像	(対応項目無し)
社員番号	(対応項目無し)

4.7. ガルーンと X-point のユーザ情報マッピング②

ロール情報	
ガルーン項目	X-point 項目
所属組織（複数可）	所属ユーザグループ（複数可）
所属ロール（複数可）	所属ユーザグループ（複数可）

第5章. 動作確認編

5.1. 動作確認チェックリスト

「サイボウズ ガルーン連携サービス」の動作確認チェックリストを用意しますので、設定完了後は以下のチェックリストを必ず確認してください。

▼確認チェックリスト

チェック	チェック名	チェック内容
<input type="checkbox"/>	ユーザインポート	ガルーンのユーザ情報を X-point へインポートします。 正常にインポートされるか確認します。 もし、ガルーンにユーザが登録されていない場合は、テスト用グループやユーザを登録してから実施します。
<input type="checkbox"/>	ポートレット表示	ガルーンのポータル画面に X-point ポートレットを表示させます。 設定したポートレットのコンテンツが表示され、ボタンやリンクが動作することを確認します。

第6章. ガルーン・アップデート時の注意

ガルーン 3.5 以前のガルーンをアップグレードする場合、ガルーン 3.7 からの仕様変更の影響に伴い連携サービスの再設定を行う必要があります。再設定を行わない場合、ポートレットの表示やシングルサインオンに失敗し X-point の画面が表示されません。

■改訂履歴

改版	改版内容
2021年4月1日版	初版
2021年11月4日版	X-point v3 でサポートされない連携方法の説明を削除。
2022年3月14日版	マニュアルタイトル等の各部の名称を変更
2024年11月18日版	サードパーティーCookie が利用できない場合の動作を追記
2025年10月6日版	「1.1.どんな機能が実現できるの？」 ・X-point ポートレットの注意事項を追加
2026年1月8日版	「4.1.ガルーンからユーザ CSV 書き出しを行う」文字コードの説明文と吹き出し内容に UTF-8 を追加 「4.2.X-point ユーザ CSV をインポートする」設定項目の追加。キャプチャの差し替え 「4.3.インポート時の注意事項」差分更新について説明を追記